

2017年12月		
筆者	所属	千葉県農林総合研究センター 花植木研究室
	職名及び氏名	研究員 中島拓
題名	10月出荷作型に向けた鉢物トルコギキョウ品種	
備考	【表説明】鉢物トルコギキョウの10月出荷作型	

トルコギキョウは、切り花向け品種を中心に全国的に生産量が増加しており、年間を通して出荷されています。鉢物向け品種の種苗も販売されており、これまでに農林総合研究センターでは鉢物品種の春出荷に合わせた栽培方法を開発してきました。一方で、鉢物類全般の需要期はこれまで母の日と年末の2回とされてきましたが、近年は9月末から11月に需要が高まり、これに対応した出荷の要望が市場等から寄せられています。そこで、鉢物品種の10月出荷に対応した作型と品種を紹介します。

トルコギキョウは播種から本葉が6から8枚に展開するまでの間に日中の温度が35℃前後、夜温が25℃以上の高温に遭遇するとロゼット化し、生育が著しく停滞します。10月出荷を行うには5月下旬に播種します。この場合、本葉が6から8枚となる時期は7月中旬から下旬となり、梅雨明け後の高温時期と重なります。そのため、鉢物向け品種の多くは、この作型で栽培を行うとロゼット化し、生育が停滞してしまいます。その様な中で、「サファイアピンクリム」（株式会社エム・アンド・ビー・フローラ）は高温条件下でも生育の停滞はわずかで、10月出荷向きの品種であると言えます。

栽培上の注意として、トルコギキョウは移植を嫌うので育苗後の鉢上げは出荷時のサイズ（仕上げ鉢）のものに行います。また、春出荷作型に比べると側枝が発達し難く、花数が少ないことから、5号鉢であれば1鉢当たり4から5株、4号鉢であれば2から3株を寄せ植えすることでボリュームを確保することができます。

作型	5月	6月	7月	8月	9月	10月
10月出荷	●		▲			■

鉢物トルコギキョウの10月出荷作型

注) 凡例 ●: 播種、▲: 鉢上げ、■: 出荷
花植木研究室（千葉市緑区）における試験結果から作成